

ジョイフル三輪
今昔物語
第2回

ジョイフル三ノ輪商店街の「ナガオカ」の五十嵐春雄さん（大正14〜平成19）の遺稿集「ジョイフル三ノ輪今昔物語」平成六年二月より

明治末期か大正初期に静亭という名で寄席又は芝居小屋を建てられたのである。後半、春木亭と名を変え席亭になったのが松坂屋こと関口梅吉氏である。

この方は芝の増上寺、靖国神社有名寺社の夜店の取締であり俗に云う香師「てきや」の元締であった。大変失礼な事ではあるが、この方は口から下はすぐに首

で顎が大変小さく無いに等しい方で私の子供の頃「顎無しオジサン」と影で呼んでおったが、いつもニコニコされ親しみ安い方であった。町会、祭礼の催し物等の行事には必ず参加されて居り、その折の写真が現存している。その当時、商店街の会合が春木亭で行われ、その為か商店主で無いにも拘らず短期間であるが、

商店会長を務めたそうである。春木亭も関口氏がお亡くなりになって今はないがアパートとして再生されたの

である。

大正から昭和廿年後半にかけて新開地通りはオシルコ道路といわれ、雨雪が降ろうものならドロドロの通りとなり長靴か下駄でないとは歩けない様相に一変するのである。

然し、明治四十一年、四十二年に三河島汚水処理所が其の壮大な規模と斬新な設備とを以って着工の運びとなり六百参拾万円にて大正二年に確定を見た。然るに工事半ばにして第一次世界大戦勃発、財政計画は根本より破壊された。

かくして十三ヶ年の日数と一千五百万円を投じて遂に大正十二年三月完成を見るのである。下水道も荒川区内は徐々に整備され新開地もオシルコ道路も解消されアスファルト道路に変身するのである。

六十歳以上の方々には御存知と思いますが、戦前新開地に色々な物賣が往来していた。ピーピーと汽笛みたいな音を出してリヤカーを引き乍ら歩いていた「ラオ屋」之はキセルの掃除屋さん、又眞黒な箱に引出しが五

個位つき、それを前後二つを天びんで、かつぎ、タンスについている様な、とつ手をカチヤカチヤ鳴らし乍ら歩いている「定斉屋」と云う菓売り、この人の服装は眞黒な伴天とパッチをはき頭には黒い小さな漆塗りの編笠をかぶっていた。越中富山の菓売

も小さな柳行李を背負い、各家庭を廻っていた。拙宅にも訪れ、私は紙風船等をももらったことをおぼえている。

又、天びんの両方に金魚を桶に入れ独特な歩き方で「金魚い、金魚」と声を出し乍ら歩いていた「金魚屋」も懐かしい。又、人に引かれた牛を良く見かけた之は第六瑞光小学校が開校する前に其の地に屠殺場があつたからである。之も昭和十三年頃芝浦に移転、昭和十五年十月廿五日に第六瑞光が開校する迄その間広い原っぱになり、子供等はここで野球や凧上げ等をして楽しんでいた。

ちなみに瑞光小学校は明治十年十二月十五日素盞雄神社脇に開校、明治三十八年六月六日第一瑞光高等小学校と改称、戦後廃校となり次に南千住中学校となり之も廃校現在は更地になっている。大正十年四月一日に人口増加を機に現在の地に瑞光小学校が設立されたのである。

